

ごみ処理施設建設に係る  
環境影響評価事後調査  
報告書

平成14年 3月

津 市

## はじめに

本報告書は、西部清掃工場施設整備事業（ごみ処理施設建設事業）を実施するにあたり、「ごみ処理施設建設に係る環境影響評価書（平成 11 年 2 月）」（以下、評価書という）において記載した環境保全を期するため、環境モニタリング調査を実施し、その結果をとりまとめたものである。

# 目 次

1 . 事業の概要	1
1 - 1 事業者の名称及び住所	1
1 - 2 対象事業の名称、種類及び規模	1
1 - 3 対象事業実施区域	1
2 . 騒音・振動	2
2 - 1 調査概要	2
2 - 2 調査項目及び調査方法	2
2 - 3 調査年月日及び調査時間帯	2
2 - 4 調査地点	2
2 - 5 調査結果	4
2 - 6 まとめ	7
3 . 特筆すべき鳥類	10
3 - 1 調査概要	10
3 - 2 調査対象種・調査年月日・調査方法	10
3 - 3 調査地点及び調査範囲	10
3 - 4 調査結果	12
3 - 5 まとめ	16
4 . 特筆すべき両生・爬虫類	20
4 - 1 調査概要	20
4 - 2 調査対象種・調査年月日・調査方法	20
4 - 3 調査場所	20
4 - 4 調査結果	20
4 - 5 まとめ	23
5 . 特筆すべき昆虫類	25
5 - 1 調査概要	25
5 - 2 調査対象種・調査年月日・調査方法	25
5 - 3 調査場所	25
5 - 4 調査結果	25
5 - 5 まとめ	31
6 . 特筆すべき植物	34
6 - 1 調査概要	34
6 - 2 調査対象種・調査年月日・調査方法	34
6 - 3 調査場所	35

6 - 4	調査結果	37
6 - 5	特筆すべき植物移植後の活着確認	42
6 - 6	まとめ	42
7	大気汚染指標種の観察	53
7 - 1	調査概要	53
7 - 2	調査年月日及び調査方法	53
7 - 3	調査地点	53
7 - 4	調査結果	53
8	水生生物(カワバタモロコ)	56
8 - 1	調査概要	56
8 - 2	調査項目及び調査方法	56
8 - 3	調査年月日及び調査内容	56
8 - 4	調査地点	56
8 - 5	調査結果	58
8 - 5 - 1	捕獲調査結果	58
8 - 5 - 2	総個体数の推定	60
8 - 6	まとめ	61
9	水質汚濁	63
9 - 1	調査概要	63
9 - 2	調査項目及び調査方法	63
9 - 3	調査年月日	63
9 - 4	調査地点	63
9 - 5	調査結果	65
9 - 6	まとめ	65
10	事後調査の実施業者	68

## 1 . 事業の概要

### 1 - 1 事業者の名称及び住所

名 称：津市  
住 所：三重県津市西丸之内 2 3 番 1 号  
代 表 者：津市長 近藤 康雄

### 1 - 2 対象事業の名称、種類及び規模

名 称：西部清掃工場施設整備事業（ごみ処理施設建設事業）  
種 類：廃棄物処理施設の設置  
規 模：処理能力 120 t / 日

### 1 - 3 対象事業実施区域

実 施 場 所：津市片田田中町地内

## 2 . 騒音・振動

### 2 - 1 調査概要

工事中の重機類による騒音及び振動の影響を代表すると認められる敷地境界及び周辺住居地域において騒音・振動レベルを測定した。

### 2 - 2 調査項目及び調査方法

調査項目及び調査方法は表 2 - 1 に示したとおりである。

表 2 - 1 調査項目及び調査方法

調査項目	調査方法
騒音	「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」(昭和 43 年 11 月 27 日号外厚生・建設省告示第 1 号) JIS Z 8731 (周辺環境)
振動	振動規制法施行規則

### 2 - 3 調査年月日及び調査時間帯

現地調査の調査年月日及び調査時間帯は表 2 - 2 に示したとおりである。

表 2 - 2 調査年月日及び調査時間帯

工事工程	調査回	調査年月日	調査時間帯
建設工事中	1 回目	平成 13 年 9 月 12 日	9:00 ~ 15:15
	2 回目	平成 13 年 12 月 18 日	

### 2 - 4 調査地点

現地調査は図 2 - 1 に示したとおり評価書と同地点 (津市西部清掃工場敷地境界 2 地点及び事業実施場所近傍の集落 1 地点) とした。



図2-1 騒音・振動調査地点

## 2 - 5 調査結果

建設工事中の騒音レベル及び振動レベルの調査結果を表 2 - 3 ~ 6 に示した。

騒音レベルでは敷地境界の第 1 回目調査の 1 で 59~68dB、 2 で 57~70dB。第 2 回目調査の 1 で 55~65dB、 2 で 59~73dB、周辺集落の 3 においては、第 1 回目調査で 45~48dB、第 2 回目調査で 48~52dB であった。

振動レベルについては、敷地境界 1 の第 1 回目で 44~47dB、第 2 回目で 39~42dB、 2 の第 1 回目で <30~32dB、周辺集落の 3 では全て 30dB 未満であった。

表 2 - 3 騒音レベル測定結果 (第 1 回目)

測定日：平成 13 年 9 月 12 日

(単位：dB)

測定時間	敷地境界		周辺集落	気 象 ( 3 )				
	1 ( L <sub>5</sub> )	2 ( L <sub>5</sub> )	3 ( L <sub>50</sub> )	風向	風速 (m/s)	天候	気温 ( )	湿度 ( % )
9時00分～	63	64	46	WNW	2.4	晴	24.9	59
9時15分～	67	64	47					
9時30分～	68	61	47					
9時45分～	60	61	46					
10時00分～	63	61	47	NW	3.1	晴	26.3	53
10時15分～	64	67	46					
10時30分～	60	63	46					
10時45分～	59	64	45					
11時00分～	62	70	45	WNW	2.7	晴	27.4	49
11時15分～	60	65	45					
11時30分～	62	67	46					
11時45分～	64	62	46					
13時00分～	62	63	47	WNW	2.4	晴	28.2	49
13時15分～	65	62	47					
13時30分～	65	63	47					
13時45分～	64	60	47					
14時00分～	64	66	47	NW	3.7	晴	27.7	48
14時15分～	63	59	48					
14時30分～	68	62	47					
14時45分～	65	62	47					
15時00分～	63	57	46	NW	2.7	晴	28.0	47

12:00～13:00 は休憩時間のため測定はしていない。



表 2 - 4 騒音レベル測定結果 (第 2 回目)

測定日 : 平成 13 年 12 月 18 日

( 単位 : dB )

測定時間	敷地境界		周辺集落	気 象 ( 3 )				
	1 ( L <sub>5</sub> )	2 ( L <sub>5</sub> )	3 ( L <sub>50</sub> )	風向	風速 (m/s)	天候	気温 ( )	湿度 ( % )
9時00分 ~	61	67	52	WNW	3.5	曇り	6.8	59
9時15分 ~	62	68	52					
9時30分 ~	59	70	52					
9時45分 ~	59	72	52					
10時00分 ~	64	68	48	WNW	3.0	曇り	7.6	56
10時15分 ~	63	65	49					
10時30分 ~	55	59	49					
10時45分 ~	62	63	49					
11時00分 ~	65	70	48	WNW	2.5	曇り	8.8	50
11時15分 ~	64	66	48					
11時30分 ~	64	66	49					
11時45分 ~	58	63	50					
13時00分 ~	62	62	51	NW	2.0	曇り	8.7	49
13時15分 ~	56	62	50					
13時30分 ~	55	60	49					
13時45分 ~	58	67	48					
14時00分 ~	57	73	50	NW	3.5	曇り	8.2	48
14時15分 ~	55	62	50					
14時30分 ~	56	65	50					
14時45分 ~	65	62	51					
15時00分 ~	65	72	51	NNW	2.9	曇り	7.6	60

12:00 ~ 13:00 は休憩時間のため測定はしていない。

表 2 - 5 振動レベル測定結果 (第 1 回目)

測定日：平成 13 年 9 月 12 日

(単位：dB)

測定時間	敷地境界		周辺集落
	1 ( $L_{10}$ )	2 ( $L_{10}$ )	3 ( $L_{10}$ )
9時00分～	47	<30	<30
9時15分～	46	<30	<30
9時30分～	47	<30	<30
9時45分～	46	<30	<30
10時00分～	47	<30	<30
10時15分～	45	<30	<30
10時30分～	46	<30	<30
10時45分～	44	<30	<30
11時00分～	46	<30	<30
11時15分～	46	<30	<30
11時30分～	45	<30	<30
11時45分～	46	<30	<30
13時00分～	47	<30	<30
13時15分～	44	<30	<30
13時30分～	47	<30	<30
13時45分～	46	<30	<30
14時00分～	46	<30	<30
14時15分～	46	<30	<30
14時30分～	46	<30	<30
14時45分～	46	<30	<30
15時00分～	46	<30	<30

12:00～13:00 は休憩時間のため測定はしていない。

表 2 - 6 振動レベル測定結果（第 2 回目）

測定日：平成 13 年 12 月 18 日

（単位：dB）

測定時間	敷地境界		周辺集落
	1 ( $L_{10}$ )	2 ( $L_{10}$ )	3 ( $L_{10}$ )
9時00分～	40	<30	<30
9時15分～	41	<30	<30
9時30分～	41	32	<30
9時45分～	41	31	<30
10時00分～	42	<30	<30
10時15分～	41	<30	<30
10時30分～	41	<30	<30
10時45分～	42	<30	<30
11時00分～	42	<30	<30
11時15分～	42	<30	<30
11時30分～	42	<30	<30
11時45分～	41	<30	<30
13時00分～	41	<30	<30
13時15分～	39	<30	<30
13時30分～	39	<30	<30
13時45分～	40	<30	<30
14時00分～	40	32	<30
14時15分～	40	<30	<30
14時30分～	40	<30	<30
14時45分～	41	<30	<30
15時00分～	41	<30	<30

12:00～13:00 は休憩時間のため測定はしていない。

## 2 - 6 まとめ

調査の結果、敷地境界 2 地点における騒音レベル及び振動レベルは、いずれの調査時も特定建設作業に係る規制基準値（騒音レベル：85dB、振動レベル：75dB）を全ての時間帯で満足していた。

振動レベルはいずれの調査時及び地点とも「公害防止の技術と法規（振動編）」に記載されている「無感」の 55dB 以下を満足していた。

さらに、今回の値を評価書記載の予測値と比較すると、騒音においては、夏季の 2 において搬入車輛やセミの鳴き声により僅かに高い値が見られたほかはいずれの時間帯もこの予測値と同等かまたは下回る値であった。また、振動レベルに関しては、敷地境界の 2 付近にてごみ搬入車輛の振動の影響が僅かに見られた他は概ね予測結果と同等の値であった。



写真 騒音・振動測定風景（平成 13 年 9 月 12 日： 1 ）



写真 騒音・振動測定風景（平成 13 年 9 月 12 日： 2 ）



写真 騒音・振動測定風景（平成 13 年 9 月 12 日： 3 ）



写真 騒音・振動測定風景（平成 13 年 12 月 18 日： 1）



写真 騒音・振動測定風景（平成 13 年 12 月 18 日： 2）



写真 騒音・振動測定風景（平成 13 年 12 月 18 日： 3）

### 3. 特筆すべき鳥類

#### 3-1 調査概要

調査範囲内において、特筆すべき鳥類の追跡調査を実施した。

#### 3-2 調査対象種・調査年月日・調査方法

調査対象種、調査年月日及び調査方法は表3-1に示したとおりである。

表3-1 調査対象種、調査年月日及び調査方法

調査対象種	調査年月日	調査方法	調査対象種	調査年月日	調査方法
オオタカ	平成13年4月26日	定点 観察調査	フクロウ	平成14年1月9日	任意 観察調査 (夜間調査)
	平成13年5月25日			平成14年2月7日	
	平成13年6月22日		カワセミ	平成13年4月26日	任意 観察調査
	平成13年7月24日			平成13年8月15日	
	平成14年1月24日			平成13年11月14日	
	平成14年2月7日			平成14年2月7日	
	平成14年3月12日		ハチクマ	平成13年6月22日	定点 観察調査
平成14年3月12日	平成13年10月11日				
カワウ	平成13年4月26日	任意 観察調査	ハリオアマツバメ	平成13年4月26日	任意 観察調査
	平成13年8月15日			平成13年10月11日	
	平成13年11月14日		ヨシゴイ	平成13年7月9日	任意 観察調査 (夜間調査)
平成14年2月7日	平成13年8月14日				
ミサゴ	平成13年4月26日	定点 観察調査	オシドリ	平成13年9月4日	任意 観察調査
	平成13年8月15日			平成13年4月26日	
	平成13年11月14日		平成14年1月24日		
ハイタカ	平成14年2月7日	定点 観察調査	サンコウチョウ	平成14年2月7日	任意 観察調査
	平成13年10月11日			平成13年5月25日	
	平成14年1月24日				

定点観察調査は、予め設定した定点において、8倍程度の双眼鏡又は20~25倍程度のフィールドスコープを用いて対象種の行動等の把握に努めた。

また、任意観察調査は、調査範囲内を任意に踏査し、対象種を鳴き声や目撃により確認に努めた。

なお、フクロウ及びヨシゴイについては、活動が主に夜間であるため夜間における任意観察調査を実施した。

#### 3-3 調査地点及び調査範囲

現地調査を実施した定点観察調査地点及び任意観察調査踏査ルートは図3-1に示したとおりである。

図 3 - 1 調査地点及び踏査ルート

### 3 - 4 調査結果

特筆すべき鳥類調査の結果は、表3 - 2に示したとおりである。

調査対象種11種(カワウ、ヨシゴイ、オシドリ、ミサゴ、ハチクマ、オオタカ、ハイタカ、フクロウ、ハリオアマツバメ、カワセミ、サンコウチョウ)の内、生息を確認したのは、6種(カワウ、ミサゴ、オオタカ、ハイタカ、フクロウ、カワセミ)であった。

確認位置は、図3 - 2 ~ 4に示したとおりである。

なお、カワウについては、下表に示したとおり年間を通して調査範囲内を採餌又は休息地として頻繁に利用しており、当該地域の池では概ね常時確認することができることから、確認位置図は省略した。

カワセミについては、赤池及び池尻池で頻繁に確認しており、同じ個体が行き来しているものと考えられることから、確認位置は範囲で示した。

表3 - 2 特筆すべき鳥類の確認状況

調査対象種	確認日時		確認状況
オオタカ	4月25日 8:20~8:21	1	事業実施場所南西方向から赤池東側の林の上空で旋回しながら、東方向に飛去した。
	4月25日 10:51~10:52	2	1が飛去した方向とほぼ同じ方向から飛来し、赤池上空で旋回し北方向に向きを変え飛去した。
	4月25日 11:20~11:21	3	事業実施場所の北東部の伊勢自動車道上空付近で旋回している個体を確認。すぐに東方向に飛去した。
	5月25日 7:23~7:24	4	池尻池南側を飛翔する1個体を確認。南西に飛去した。
	5月25日 7:32~7:33	5	4が飛去した方向より飛来し、池尻池南端の枯れ松に止まる。
	5月25日 7:33~7:36	6	5がしばらくして東方向に飛去。
カワウ	本種の調査時及び他のいずれの調査時においても、赤池及び池尻池周辺に飛来し、採餌又は休息中の個体を多数確認した。		
ミサゴ	10月11日 6:47~7:05	1	赤池の北側池畔のマツで休息している個体を確認した。20分近く休息した後、西方向へ飛去した。
	11月14日 7:38	2	赤池の南より出現し、赤池上空で方向を変え、東方向へ飛去した。
カワセミ	カワウと同様、赤池及び池尻池を行き来している個体を確認。生息数は2個体程度と推定されるが、両池に頻繁に出現した。		
ハイタカ	10月11日 8:30	a	赤池の南側より赤池を横断し、そのまま北方向に飛去した。
フクロウ	1月9日 19:15~19:25		松林池西側の竹林で雄の鳴き声を確認した。

1：上記以外のハチクマ、ハリオアマツバメ、ヨシゴイ、オシドリ、サンコウチョウの5種については確認できなかった。

2：表中、オオタカ、ミサゴ、ハイタカの欄の 1、2、a は図3 - 2 ~ 4の 1、2、a に対応する。



図 3 - 2 才力確認状況

図3 - 3 ミサゴ、フクロウ、ハイタカ確認状況

図 3 - 4 カワセミ確認状況

### 3 - 5 まとめ

今回の調査では、特筆すべき鳥類の調査対象 11 種の内、6 種（カワウ、ミサゴ、オオタカ、ハイタカ、フクロウ、カワセミ）の生息を確認した。

オオタカに関しては、平成 13 年 4 月及び 5 月の本種の調査時に飛翔を確認したが、繁殖を示唆する行動は確認できなかった。

その他猛禽類については、ミサゴ、ハイタカ、フクロウも確認していることから、当該地域周辺が良好な餌場の一部となっていると考えられる。



写真 - オオタカ調査風景（平成 13 年 4 月 26 日）



写真 材物、加々、加々ミ、ミゴ、オドリ、ハチマツ調査風景（平成 13 年 4 月 26 日）



写真 オオタカ、ハチクマ調査風景（平成 13 年 6 月 22 日）



写真 オオタカ、ハイツカ調査風景（平成 14 年 1 月 24 日）



写真 フクロウ調査風景（平成 14 年 1 月 9 日）



写真 ヨシゴイ調査風景（平成 13 年 7 月 9 日）



写真 サンコウチョウ調査風景（平成 13 年 5 月 25 日）

#### 4 . 特筆すべき両生・爬虫類

##### 4 - 1 調査概要

調査範囲内において、特筆すべき両生・爬虫類の追跡調査を実施した。

##### 4 - 2 調査対象種・調査年月日・調査方法

調査対象種、調査年月日及び調査方法は表 4 - 1 に示したとおりである。

表 4 - 1 調査対象種、調査年月日及び調査方法

調査対象種	調査年月日	調査方法
カスミサンショウウオ	平成 13 年 4 月 25 日	任意観察調査
タゴガエル	平成 13 年 5 月 14 日	
シュレーゲルアオガエル		

調査は、調査範囲内を任意に踏査する任意観察調査を実施し、対象種の目撃や鳴き声による生息の確認に努めた。

##### 4 - 3 調査場所

調査範囲は事業実施場所及びその周辺とした。踏査ルートは図 4 - 1 に示したとおりである。

##### 4 - 4 調査結果

現地調査の結果は、表 4 - 2 に示したとおり調査対象 3 種（タゴガエル、シュレーゲルアオガエル、カスミサンショウウオ）のうち、シュレーゲルアオガエル、カスミサンショウウオの生息を確認した。確認位置は図 4 - 2 に示したとおりである。

表 4 - 2 特筆すべき爬虫・両生類生息状況

調査対象種	確認状況
タゴガエル	確認できなかった。
シュレーゲルアオガエル	事業実施場所周辺の水田で多数確認したが、平成 12 年度の調査に比べ、確認地点及び生息確認数は少なかった。
カスミサンショウウオ	赤池北側の休耕田で卵嚢跡 3 対分と幼生 10 個体を確認したが、平成 12 年度の調査で卵嚢を比較的多く確認した赤池の南西側の谷筋では今回は確認できなかった。



図4 - 1 特筆すべき両生・爬虫類踏査ルート

図4 - 2 シュレーゲルアオガエル・カスミサンショウウオ生息確認地点

#### 4 - 5 まとめ

今回の調査では、対象とした3種のうち、シュレーゲルアオガエル、カスミサンショウウオの2種の生息を確認した。

カスミサンショウウオについては、平成12年度の調査に比べ、産卵の数が少なかったが、これは平成13年1月～3月の気候が温暖であったことによると思われる。



写真 カスミサンショウウオ調査風景



写真 タゴガエル調査風景



写真 シュレーゲルアオガエル調査風景

## 5 . 特筆すべき昆虫類

### 5 - 1 調査概要

調査範囲内において、特筆すべき昆虫類の追跡調査を実施した。

### 5 - 2 調査対象種・調査年月日・調査方法

調査対象種、調査年月日及び調査方法は表 5 - 1 に示したとおりである。

表 5 - 1 調査対象種、調査年月日及び調査方法

調査項目	調査年月日	調査方法
ハルゼミ	平成 13 年 5 月 14 日	任意観察調査(鳴き声)
ウシカメムシ	平成 13 年 7 月 23 日	任意捕獲調査
	平成 13 年 9 月 26 日	
アミメカゲロウ	平成 13 年 7 月 23 日	任意捕獲調査
	平成 13 年 9 月 26 日	
アオマツムシ	平成 13 年 9 月 26 日	任意観察調査(鳴き声)
オオムラサキ	平成 13 年 7 月 23 日	任意捕獲調査

調査、調査範囲内を任意に踏査する任意観察調査により実施し、ハルゼミ、アオマツムシについては鳴き声による生息の確認、他の種については、タモ網によるハンドソーティング法を用いて任意に捕獲し生息の確認に努めた。

### 5 - 3 調査場所

調査範囲は事業実施場所及びその周辺とした。踏査ルートは図 5 - 1 (1) ~ (3) に示したとおりである。

### 5 - 4 調査結果

現地調査の結果、表 5 - 2 に示したとおり調査対象種 5 種 (ハルゼミ、ウシカメムシ、アミメカゲロウ、アオマツムシ、オオムラサキ) のうち、ハルゼミ、アミメカゲロウ、アオマツムシの 3 種の生息を確認した。

ハルゼミは 4 箇所ですべて 2 ~ 5 個体程度、アミメカゲロウは計 4 箇所ですべて 1 個体であった。

アオマツムシは調査範囲内の広い範囲で生息を確認した。

確認位置は図 5 - 2、3 に示したとおりである。

図5 - 1 (1) 特筆すべき昆虫類調査踏査ルート（ハルゼミ）

図 5 - 1 (2) 特筆すべき昆虫類踏査ルート及び調査範囲 (ウカムシ・アミガの・オムラサキ)

図5 - 1 (3) 特筆すべき昆虫類踏査ルート及び調査範囲 (アオマツムシ)



図5 - 2 特筆すべき昆虫類確認位置（ハルゼミ・アミメカゲロウ）

図 5 - 3 特筆すべき昆虫類確認位置 (アオマツムシ)

## 5 - 5 まとめ

今回の調査では調査対象種5種のうち、ハルゼミ、アミメカゲロウ、アオマツムシの3種の生息を確認した。

ハルゼミ、アミメカゲロウは確認地点・確認個体数とも少なかったが、アオマツムシは多くの地点で多数の生息を確認した。



写真 ハルゼミ調査風景



写真 アオマツムシ調査風景



写真 アミメカゲロウ調査風景



写真 ウシカメムシ調査風景



写真 オオムラサキ調査風景

6 . 特筆すべき植物

6 - 1 調査概要

調査範囲内において、特筆すべき植物の追跡調査を実施した。

6 - 2 調査対象種・調査年月日・調査方法

調査対象種、調査年月日及び調査方法は表 6 - 1 に示したとおりである。

表 6 - 1 調査対象種、調査年月日及び調査方法

調査項目	調査年月日		調査方法
トウカイコモウセンゴケ	1 回目	平成 13 年 8 月 10 日	任意観察調査
	2 回目	平成 13 年 10 月 15 日、25 日	
タツナミソウ	1 回目	平成 13 年 6 月 13 日	
	2 回目	平成 13 年 7 月 25 日	
タニウツギ	1 回目	平成 13 年 6 月 13 日	
	2 回目	平成 13 年 7 月 25 日	
オミナエシ	1 回目	平成 13 年 8 月 10 日	
	2 回目	平成 13 年 10 月 15 日、25 日	
ショウジョウバカマ	1 回目	平成 13 年 5 月 1、2、8 日	
	2 回目	平成 14 年 3 月 4 日	
ササユリ	-	平成 13 年 7 月 25 日	
シュンラン	-	平成 13 年 5 月 1、2、8 日	
オオバノトンボソウ	-	平成 13 年 7 月 25 日	
ツルニンジン	1 回目	平成 13 年 8 月 10 日	
	2 回目	平成 13 年 10 月 15 日、25 日	
スズサイコ	-	平成 13 年 7 月 25 日	
コクラン	-	平成 13 年 7 月 25 日	
オオイワカガミ	-	平成 13 年 6 月 13 日	
タニヘゴ	-	平成 13 年 7 月 25 日	
ヤマホオズキ	-	平成 13 年 8 月 10 日	
キキョウ	-	平成 13 年 8 月 10 日	
ウキシバ	-	平成 13 年 8 月 10 日	
コシンジュガヤ	-	平成 13 年 8 月 10 日	
イシモチソウ	-	平成 13 年 6 月 13 日	
ヒメコヌカグサ	-	平成 13 年 6 月 13 日	
ギンリョウソウモドキ	-	平成 13 年 9 月 12 日	
ヒナノシャクジョウ	-	平成 13 年 9 月 12 日	
スズカアザミ	-	平成 13 年 9 月 12 日	
スイラン	-	平成 13 年 9 月 12 日	
イヌセンブリ	-	平成 13 年 10 月 15 日、25 日	
リンドウ	-	平成 13 年 10 月 15 日、25 日	
センブリ	-	平成 13 年 10 月 15 日、25 日	
テイショウソウ	-	平成 13 年 10 月 15 日、25 日	
オケラ	-	平成 13 年 10 月 15 日、25 日	
ショウジョウバカマ	-	平成 14 年 3 月 4 日	活着確認

調査は、平成 12 年度調査までに生育を確認した場所を踏査し、特筆すべき植物の生育の確認に努めた。

また、平成 11 年 4 月に移植をしたショウジョウバカマについては、移植株の生育を確認する活着確認調査を実施した。

### 6 - 3 調査場所

調査場所は、評価書記載の生育確認地点を中心に調査を実施した。

主な踏査ルートは図 6 - 1 に示したとおりである。

図 6 - 1 特筆すべき植物の主な踏査ルート



6 - 4 調査結果

特筆すべき植物の生育確認状況を表 6 - 2 に示した。

調査の結果、概ね良好に生育していた。

確認位置は図 6 - 2 に示したとおりである。

表 6 - 2 特筆すべき植物生育確認状況

	地点 番号	評価書の 個体数	確認時期 : 評価書	平成 13 年度 1 回目		平成 13 年度 2 回目		
				確認数・範囲	生育状況	確認数・範囲	生育状況	
1	トウカイモウセンゴケ	TK1	3 × 5 m <sup>2</sup>		3m×10m	良好(開花跡あり)	3m×10m	良好(開花跡あり)
		TK2			4 m <sup>2</sup>	良好(開花)	4 m <sup>2</sup>	良好(開花跡あり)
		TK3			1m×3m、1m×2m	良好(開花)	1m×3m、1m×2m	良好(開花跡あり)
2	タニハコ	TH1			6 株	良好		
3	リンドウ	R1	1		堰堤全域多数	小株		
		R2						
		R3			40 + 株	良好(つぼみあり)		
4	セブツリ	SB1	1		-	-		
		SB2			5m×2m	良好(つぼみあり)		
		SB3			-	-		
5	ツナミソウ	TA1	1		-	-	-	
		TA2	1		-	-	-	
		TA3			20 + 株	良好(結実)	20 + 株	小株
		TA4			20 + 株	良好(結実)	20 + 株	小株
		TA5			10 + 株	良好(結実)	10 + 株	小株
		TA6			50 + 株	良好(結実)	50 + 株	雑草に覆われる
		TA7			約 10 株	良好(結実)	約 10 株	良好(結実)
		TA8			約 20 株	良好(結実)	約 20 株	良好
		TA9			5m×5m	良好(結実)	5m×5m	良好
		TA10			-	雑草繁茂で不明	3 株	小株
		TA11			2m×20m	良好(開花)	2m×20m	良好(結実)
		TA12			5 株	良好(結実)	5 株	良好(結実)
		TA13			3m×5m	良好(結実)	3m×5m	良好(結実)
6	タニウツギ	TU1	1		1 株	良好(開花跡あり)	1 株	良好(開花跡あり)
		TU2	1		-	-	-	-
		TU3	1		-	-	-	-
		TU4			-	-	-	-
7	オミナシ	OM1	10 +		7m×7m	良好(つぼみあり)	7m×7m	良好(開花)
		OM2	1		7 株	良好(つぼみあり)	7 株	小株
		OM3			50 株(6m×30m)	良好(つぼみあり)	50 株(6m×30m)	良好(開花)
		OM4			15 株	ロゼット葉	15 株	ロゼット葉
		OM5			3 株	良好(開花)	3 株	良好(開花)
		OM6			-	雑草繁茂で不明	1 株	ロゼット葉
8	テイショウソウ	TS1	1		-	-		
9	ショウジヨウハカ	S1	30 +		30+株	良好(結実 2 株)	30+株	良好
		S2	2		12	良好	20 株	良好
		S3	10		25	良好(結実 1 株)	25 株	良好
		S4	5 +		3	良好	15 株	良好

	地点 番号	評価書の 個体数	確認時期 ：評価書	平成 13 年度 1 回目		平成 13 年度 2 回目	
				確認数・範囲	生育状況	確認数・範囲	生育状況
9 ショウジ ヨカハ 加	S5	4 0 +		40+株	良好 (結実 1 株)	40+株	良好
	S6	2		10+株	良好 (結実 2 株)	10+株	良好
	S7	2		-	-	-	-
	S8	15 +		10 株	良好	15 株	良好
	S9	10		-	-	-	-
	S10	13		-	-	-	-
	S11	25		-	消失	-	-
	S12	10		-	消失	-	-
	S13	6 0 +		50 株	良好	50 株	良好
	S14	5 0 +		15 株	良好	15 株	良好
	S15	5 0 +		40 株	良好	40 株	良好
	S16	4 0 +		-	-	-	-
	S17	3 0 +		20 + 株	良好	20 + 株	良好
	S18	2 0 +		20 + 株	良好 (結実 1 株)	20 + 株	良好
	S19	15 +		15 + 株	良好 (結実 1 株)	20 + 株	良好
	S20	3 0 +		30 + 株	良好	30 + 株	良好
	S21	1 0 +		30 + 株	良好 (結実 3 株)	30 + 株	良好
	S22	10		20 + 株	良好 (結実 2 株)	20 + 株	良好
	S23	1		-	-	-	-
	S24	1		-	-	-	-
	S25	2		3 株	良好	5 株	良好
	S26	5 0 +		50 + 株	良好	50 + 株	良好
	S27	3 0 +		30 + 株	良好	30 + 株	良好
	S28	2 5 +		3 株	良好	3 株	良好
	S29	5		5 株	ササに覆われ減少	10 + 株	良好
	S30	2 0 +		50 株	良好 (結実 4 株)	50 株	良好
	S31			20 + 株	良好 (結実 4 株)	20 + 株	良好
	S32	5		60 株	良好 (結実 1 株)	60 株	良好
	S33	5		4 株	良好	4 株	良好
	S34	2		5 株	良好	7 株	良好
	S35	1		15 株	良好 (結実 2 株)	15 株	良好
	S36			50 株	良好 (結実 5 割)	50 株	良好
	S37			100 株	良好(小株)	100 株	良好(小株)
	S38			100 株	良好 (結実 5 割)	100 株	良好(つぼみ 4 株)
S39			50 株	良好	50 株	良好	
S40			30 株	良好	30 株	良好	
S41			1 株	良好	-	消失	
S42			5 株	良好	5 株	良好	
S43			10 株	良好	10 株	良好	
S44			40 株	良好	40 株	良好	
S45			20 株	良好	30 株	良好	
S46			40 株	良好	40 株	良好(つぼみ 1 株)	
S47			20 株	良好 (結実 2 株)	30 株	良好 (開花 1 株)	
S48			50 株	良好	50 株	良好	
S49			20 株	良好	20 株	良好 (開花 1 株)	
S50			50 株	良好 (結実 1 株)	50 株	良好 (開花 9 株)	
S51			70 株	良好	70 株	良好	
S52			15 株	良好 (結実 1 株)	15 株	良好 (開花 1 株)	

	地点 番号	評価書の 個体数	確認時期 ：評価書	平成 13 年度 1 回目		平成 13 年度 2 回目	
				確認数・範囲	生育状況	確認数・範囲	生育状況
9	ショウジ ヨルハ カ	S53		300 株	良好 (結実 2 割)	300 株	良好
10	サマリ	SY1	1	1 株	良好		
		SY2		2 株	良好		
		SY3		2 株	良好		
		SY4		1 株	良好		
		SY5		-	-		
		SY6		1 株	良好		
		SY7		5 株	良好 (結実 1 株)		
		SY8		-	消失		
		SY9		-	-		
		SY10		1 株	良好 (開花跡あり)		
		SY11		-	-		
		SY12		-	-		
		SY13		-	消失		
		SY14		-	消失		
11	シュンラン	SR1	1	3 株	良好		
		SR2	1	2 株	良好		
		SR3	1	7 株	良好		
		SR4	1	2 株	良好		
		SR5		1 株	良好		
		SR6		4 株	葉に食害跡		
		SR7		2 株	葉に食害跡		
		SR8		5 株	良好 (2 株開花)		
		SR9		4 株	良好		
		SR10		1 株	良好		
		SR11		10 株	良好		
		SR12		15 株	良好		
		SR13		4 株	良好		
		SR14		4 株	良好		
		SR15		1 株	良好		
		SR16		1 株	葉に食害跡		
		SR17		4 株	葉に食害跡		
		SR18		3 株	良好		
		SR19		1 株	良好		
		SR20		5 株	良好		
		SR21		5 株	良好		
		SR22		2 株	斜面崩壊のため減少		
		SR23		12 株	葉に食害跡		
		SR24		8 株	良好		
		SR25		4 株	良好 (1 株開花)		
		SR26		10 株	良好		
		SR27		2 株	良好		
		SR28		1 株	葉に食害跡		
		SR29		5 株	良好		
		SR30		1 株	良好		
		SR31		2 株	斜面崩壊のため減少		
		SR32		8 株	良好		
		SR33		2 株	良好		
		SR34		1 株	良好		
12	オハ トホ ヲ	OT1	1	1 株	小株		
		OT2		-	-		

	地点 番号	評価書の 個体数	確認時期 : 評価書	平成 13 年度 1 回目		平成 13 年度 2 回目	
				確認数・範囲	生育状況	確認数・範囲	生育状況
12	オハノトホソウ	OT3		3 株	小株		
		OT4		-	消失		
13	ツルニンジ	TN1	2 × 2	(2m×2m) 1 ヶ所	良好	(2m×2m) 1 ヶ所	良好
14	オケラ	OK1	不明	-	-		
		OK2		3 株	良好		
		OK3		4 株	良好		
		OK4		2 株	良好		
15	スサコ	SS1		5 株	良好		
		SS2		-	-		
16	コケラ	KK 1		20+株	良好		
		KK 2		2 株	良好(開花跡あり)		
		KK 3		20+株	良好		
		KK 4		5 株	良好(結実1株)		
		KK 5		15 株	良好		
17	オウカガミ	OI 1		(3m×3m) 3 ヶ所	良好(開花跡あり)		
18	ギンヨウソウモトキ	GM 1		30 株	良好(開花)		
19	キヨウ	KY1		2 株	良好(つぼみあり)		
		KY2		-	消失		
20	ヒナシヤクソウ	HS1		-	-		
		HS2		-	-		
		HS3		-	-		
		HS4		-	-		
		HS5		15 株	良好(開花)		
		HS6		1 株	良好(開花)		
		HS7		-	-		
		HS8		3 株	良好(開花)		
21	ウシハ	US1		4 m <sup>2</sup>	良好(開花)		
		US2		20 m <sup>2</sup>	良好(開花)		
		US3		-	消失		
22	ヤマホオノキ	YH1		18 株	良好		
23	スサカザミ	SA1		3 株	小株		
24	スイラン	SN1		5 株	良好(開花)		
		SN2		2 株	良好(開花)		
		SN3		50+株	良好(開花)		
25	コシジユガヤ	KJ1		-	消失		
26	イセソウリ	IN1		-	消失		
		IN2		1 株	良好(つぼみあり)		
27	イシモチソウ	IS1		3 株	良好		
28	ヒメコヌカゲサ	HM1		1m×2m	良好		
		HM2		-	消失		
		HM3		1m×1m	良好		
		HM4		2 株	良好		
		HM5		0.5m×1m	良好		
		HM6		1m×1m	良好		
		HM7		-	消失		
		HM8		1m×2m	良好		
		HM9		-	消失		
		HM10		1m×1m	良好		

1 : 表中の「 - 」は、昨年度の調査またはそれ以前に既に消失している個体及び本調査において確認できなかった個体を示す。

2 : 「ロゼット葉」とは根生葉のうち、冬に枯死することなく地表に密着して越冬するもの。

図 6 - 2 特筆すべき植物の確認位置

#### 6-5 特筆すべき植物移植後の活着確認

平成11年4月に移植したショウジョウバカマの2年後の活着状況について平成14年3月に確認調査を実施した。

調査地点（移植地）は図6-3に示したとおりである。

調査の結果、移植した株は良好に生育していた。

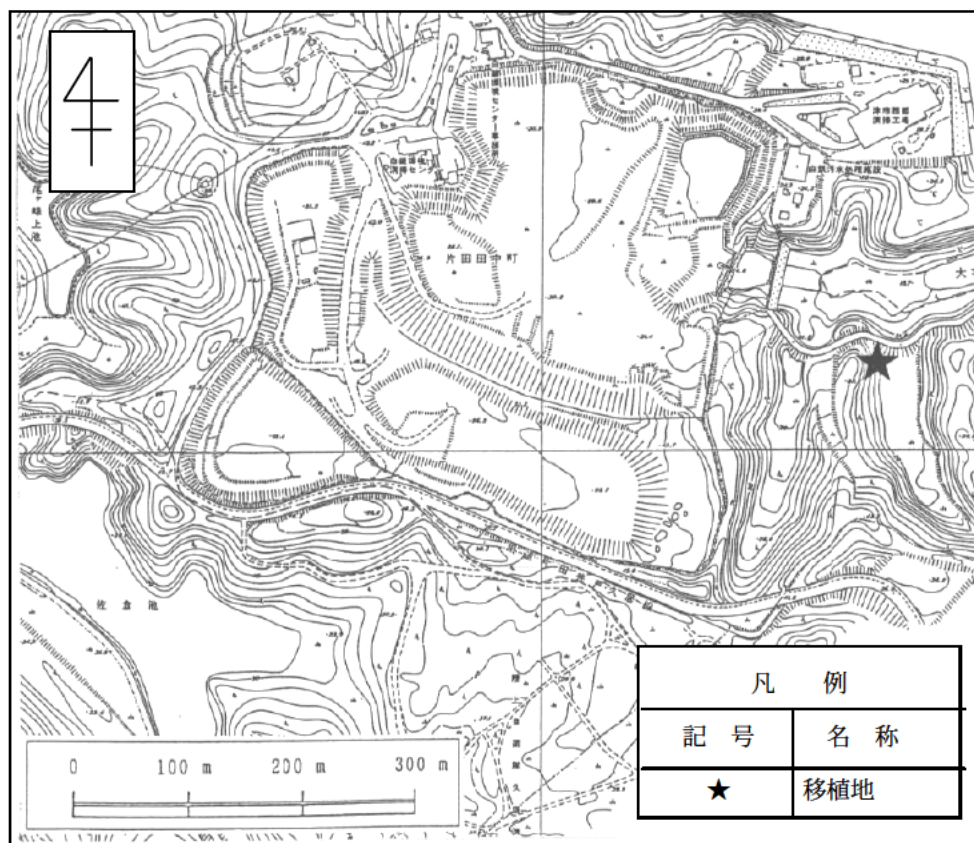


図6-3 移植植物活着状況調査地点

#### 6-6 まとめ

今回の調査において、平成12年度の調査までに生育を確認した種については、概ね生育は良好であり、依然当該地域は里山環境として維持されていると考えられる。



特筆すべき植物  
トウカイモウセンゴケ  
平成 13 年 8 月 10 日



特筆すべき植物  
タツナミソウ  
平成 13 年 6 月 13 日



特筆すべき植物  
タニウツギ  
平成 13 年 6 月 13 日



特筆すべき植物  
オミナエシ  
平成 13 年 10 月 15 日



特筆すべき植物  
ショウジョウバカマ  
平成 13 年 5 月 2 日



特筆すべき植物  
ササユリ  
平成 13 年 7 月 25 日





特筆すべき植物  
シュンラン  
平成 13 年 5 月 1 日



特筆すべき植物  
オオバノトンボソウ  
平成 13 年 7 月 25 日



特筆すべき植物  
ツルニンジン  
平成 13 年 8 月 10 日



特筆すべき植物  
スズサイコ  
平成 13 年 8 月 10 日



特筆すべき植物  
コクラン  
平成 13 年 7 月 25 日



特筆すべき植物  
オオイワカガミ  
平成 13 年 6 月 13 日



特筆すべき植物  
 タニヘゴ  
 平成 13 年 8 月 10 日



特筆すべき植物  
 ヤマホオズキ  
 平成 13 年 8 月 10 日



特筆すべき植物  
 キキョウ  
 平成 13 年 8 月 10 日



特筆すべき植物  
ウキシバ  
平成 13 年 8 月 10 日



特筆すべき植物  
イシモチソウ  
平成 13 年 6 月 13 日



特筆すべき植物  
ヒメコヌカグサ  
平成 13 年 6 月 13 日



特筆すべき植物  
ギンリョウソウモドキ  
平成13年9月12日



特筆すべき植物  
ヒナノシャクジョウ  
平成13年7月25日



特筆すべき植物  
スズカアザミ  
平成13年9月12日



特筆すべき植物  
スイラン  
平成 13 年 10 月 15 日



特筆すべき植物  
イヌセンブリ  
平成 13 年 10 月 25 日



特筆すべき植物  
リンドウ  
平成 13 年 10 月 15 日



特筆すべき植物  
 センブリ  
 平成 13 年 10 月 15 日



特筆すべき植物  
 オケラ  
 平成 13 年 10 月 15 日



特筆すべき植物  
 ショウジョウバカマ移植株 1  
 平成14年3月4日



特筆すべき植物  
 ショウジョウバカマ移植株 2  
 平成14年3月4日



## 7. 大気汚染指標種の観察

### 7-1 調査概要

事業実施場所周辺において大気汚染指標種（ウメノキゴケ）の施設供用前における現況の状況を観察した。

### 7-2 調査年月日及び調査方法

調査年月日及び調査方法を表7-1に示した。

観察の内容は、大きさ、葉状体裏面の色（表面の色は水分条件によって変化しやすい）、細胞の崩壊の有無といった生育状況を記録した。

表7-1 調査年月日及び調査方法

調査年月日	調査対象種	調査方法
平成13年10月15日	ウメノキゴケ	現地観察及び写真撮影

### 7-3 調査地点

調査は図7-1に示した本種の生育を確認した2地点で行った。

### 7-4 調査結果

事業実施場所周辺の2地点でウメノキゴケの観察を行った結果、表7-2に示したとおり、葉状体の色は良く、細胞の崩壊が見られなかったことから生育状況は良好と思われる。

表7-2 ウメノキゴケの確認状況

確認地点	生育木	大きさ (cm)	色	細胞	備考
UK1	キリ	6.8×8.0	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	左下の1/4が欠けている
UK2	ソメイヨシノ	4.0×4.0	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	周囲に小ぶりの株が複数見られ、生育環境は良好
		5.0×3.0	葉状体裏面はつやのある褐色	崩壊なし	周囲に小ぶりの株が複数見られ、生育環境は良好



図7-1 大気汚染指標種（ウメノキゴケ）調査地点



大気汚染指標種の観察  
 ウメノキゴケ - 1  
 平成 13 年 10 月 15 日



大気汚染指標種の観察  
 ウメノキゴケ - 2  
 平成 13 年 10 月 15 日

## 8 . 水生生物（カワバタモロコ）

### 8 - 1 調査概要

事業実施場所北側に隣接する池において、カワバタモロコの調査を実施した。

### 8 - 2 調査項目及び調査方法

サナギ粉とねり餌を練り合わせた餌を入れた「かごわな」を設置し、捕獲したカワバタモロコの全個体について計数及び魚体寸法の測定を行った。

捕獲した個体は、鰭切りを実施した後放流し、翌日、ほぼ同地点、同時刻、同方法で捕獲した。

また、鰭切りを実施した個体の再捕獲率に基づき生息個体数の推定を行った。

### 8 - 3 調査年月日及び調査内容

現地調査の調査年月日及び調査内容は表 8 - 1 に示したとおりである。

表 8 - 1 調査年月日及び調査内容

調査年月日	調査内容
平成 13 年 8 月 27 日	捕獲調査
平成 13 年 8 月 28 日	再捕獲調査

### 8 - 4 調査地点

現地調査の調査地点は、図 8 - 1 に示したとおり事業実施場所北側に隣接する池において 25 地点設定し、調査を実施した。

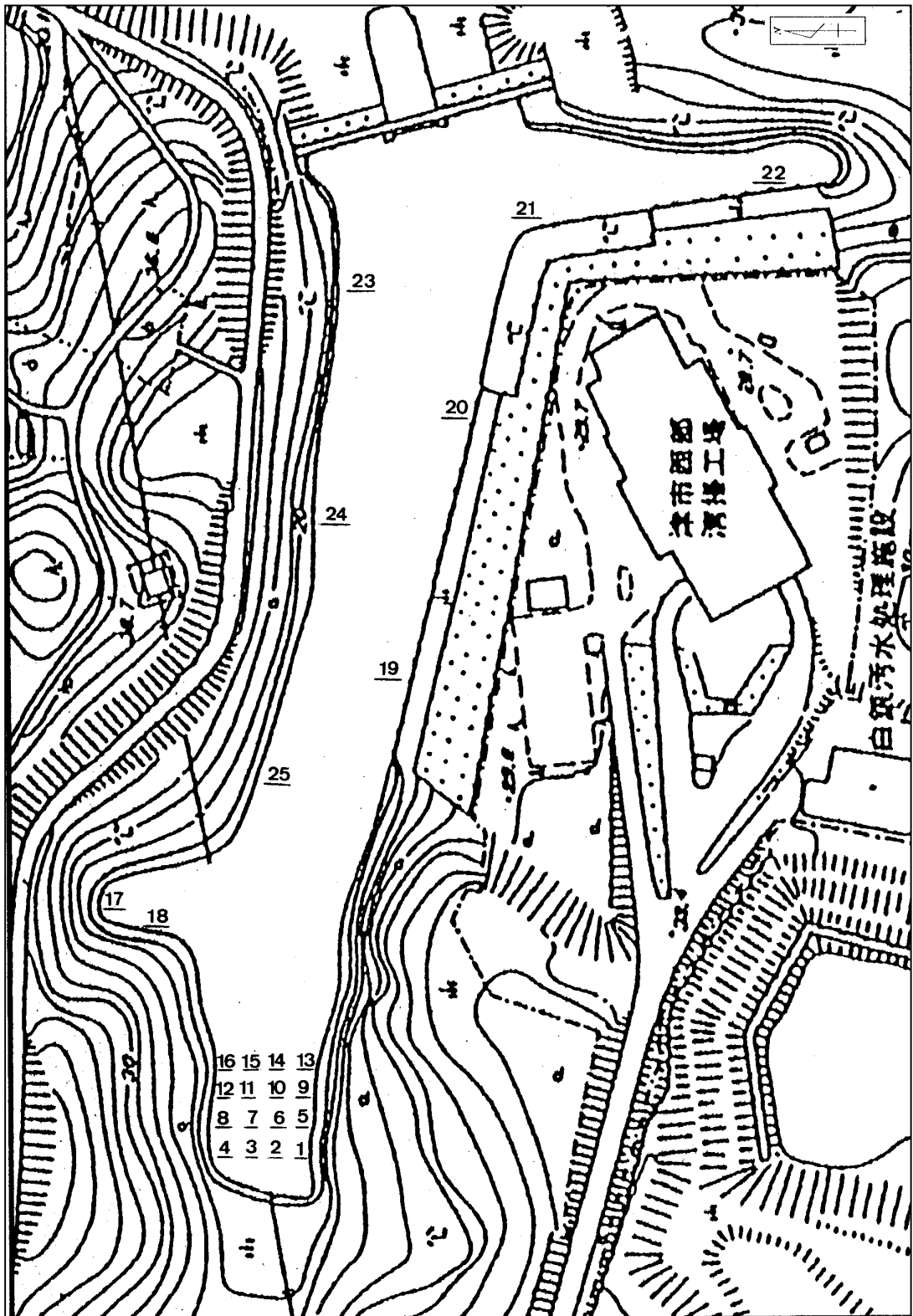


図 8 - 1 水生生物 (カワバタモロコ) 調査地点

8 - 5 調査結果

8 - 5 - 1 捕獲調査結果

調査1日目は、表8 - 2に示したとおりカワバタモロコを196個体(うち4個体は死亡個体)捕獲した。

その他の捕獲種はタモロコ、モツゴ、フナ、コイの4種であった。

調査地点のうち、カワバタモロコを最も多く捕獲したのは7で、54個体と全体の約28%を占めていた。

表8 - 2 捕獲魚類種及び個体数

地点	カワバタモロコ	タモロコ	モツゴ	フナ	コイ	備考
1	15	8	3	1		
2	21	8	3			死亡2個体
3	11	5	2	3		
4	2	2	1			
5	6	12	3			
6	31	2	5			
7	54	10	3			死亡2個体
8	4	1	3			
9		6				
10	7	2				
11	25	6	3	1		
12	3	5	3			
13		10				
14		14				
15	1	6	1			
16	5	23	6			
17	5	7	6			
18	6	3	1			
19		14	3			
20						
21		27				
22		1	3	1		
23		53	6		1	
24		1				
25		2	2			
捕獲数	196	228	57	6	1	

また、再捕獲の結果を表 8 - 3 に示した。

同表に示したとおりカワバタモロコを 332 個体捕獲した。

調査地点のうち、本種を最も多く捕獲したのは前日と同様 7 の地点で、90 個体と全体の約 27% を占めていた。

また、捕獲した個体について、鱗切りの有無を確認したところ、表 8 - 4 に示したとおり 332 個体のうち、鱗切りが行われていたのは 29 個体であった。

その他の捕獲種はタモロコ、モツゴ、フナ、コイ、ナマズ、メダカの 6 種であった。

表 8 - 3 再捕獲調査の捕獲魚類種及び個体数

地点	カバ <sup>〃</sup> 死口	死口	モツ <sup>〃</sup>	フナ	コイ	ナマズ	メダカ	備考
1	1	9	10	1			6	
2	13	2	4	1			4	
3	21	4	2	1				
4	25	4	1	1			8	
5	5	15	8					
6	44	9	14	4				
7	90	4	8	3				
8	12	4	11	1				
9	4	27	9					
10	26	1	14	1				
11	54	12	17					
12	16	23	14	6	1			
13		5						
14	1	2	11					
15	1		6	1				
16	14	15	19					
17	3	3	5					
18	2	6	1			1		
19		13	2					
20		3						
21		9	3					
22								
23		8	7					
24		7						
25		8	2					
捕獲数	332	193	168	20	1	1	18	

表 8 - 4 カワバタモロコ鱭切り確認状況（第 2 日目）

確認状況	個体数
鱭切りなし	303
鱭切りあり	29
総 数	332

### 8 - 5 - 2 総個体数の推定

捕獲調査の結果から、第 1 日目に捕獲し、鱭切り後放流したカワバタモロコの個体数と、第 2 日目に再捕獲した総個体数及び、そのうち鱭切りの行われていた個体数を用いて、当該池に生息する総個体数を以下のとおり推定した。

#### ( 1 ) 推定方法

当該池に生息するカワバタモロコ総個体数の推定には移出入の効果が無視できるとして、Petersen の式を用いた。

$$\text{個 体 数} : N = ( R / r ) C$$

$$\text{標準偏差} : S D ( N ) = [ R ^ 2 C ( C - r ) / r ^ 3 ] ^ { 1 / 2}$$

ただし、R : 1 回目の標識放流数

C : 2 回目の捕獲全個体数

r : 再捕獲個体数

95%信頼限界係数 : 1.96

#### ( 2 ) 推定結果

当該池で、8 月 27 日に 196 個体のカワバタモロコを捕獲した。そのうち死亡個体（4 個体）を除く全個体 192 個体を鱭切りし、標識個体として放流した。翌 28 日、前日とほぼ同じ時間帯に同じ方法で捕獲作業を行った。

全捕獲個体数は 332 個体で、そのうち、再捕獲個体数は 29 個体であった。

これらの数値を上記の計算式に当てはめ、個体数推定を行うと、生息個体数は  $2,198 \pm 764$ （95%信頼限界）個体となった。



## 8-6 まとめ

今回の調査の結果、当該池におけるカワバタモロコの生息推定個体数は  $2,198 \pm 764$  個体となった。

今回の値を図5-2に示した過去の調査結果と比較すると、今回の推定個体数は平成10年(約3000個体)及び平成12年(約2500個体)とほぼ同等の値であった。

これまでの調査から、今回採用している調査方法は、捕獲個体数により誤差の範囲が大きく変動することと、同時に本種の推定生息個体数は年によって変動すると考えられる。

今後は、継続して本種を監視していくことにより、個体数の推移や、本事業の実施による影響等が見られるものと思われる。

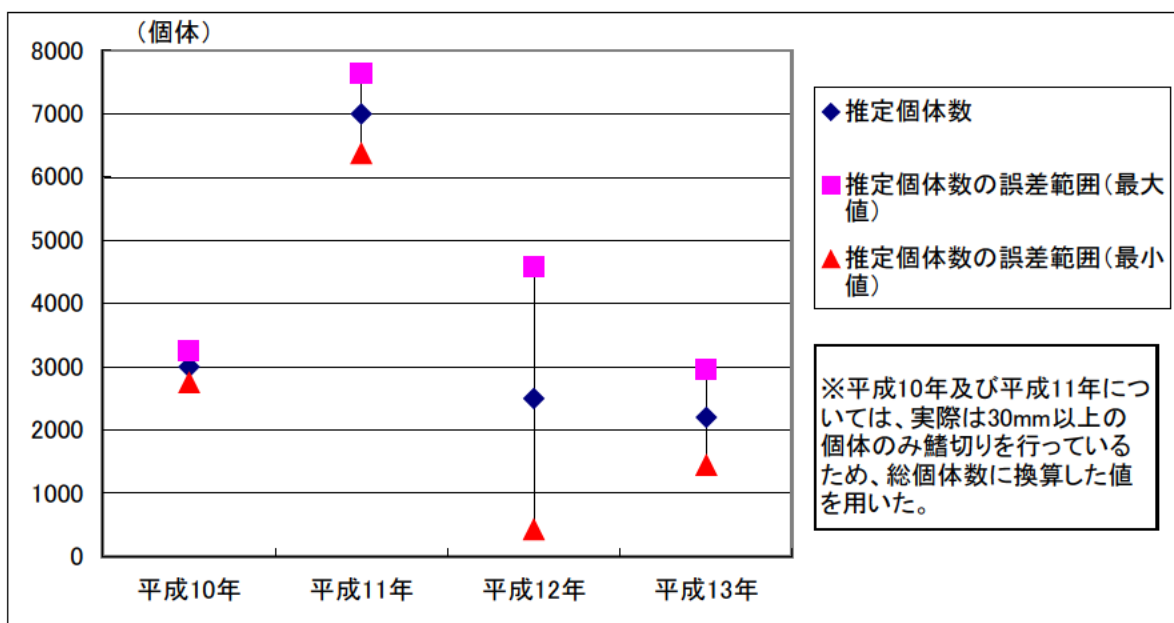


図8-2 過去の調査結果との比較



写真 水生生物（カワバタモロコ）平成 13 年 8 月 27 日）調査風景



写真 水生生物（カワバタモロコ）平成 13 年 8 月 28 日）調査風景



写真 水生生物（カワバタモロコ）調査風景

## 9 . 水質汚濁

### 9 - 1 調査概要

工事中に降雨により生じる濁水が、下流の赤池及び河川に与える影響について調査を実施した。

### 9 - 2 調査項目及び調査方法

調査項目及び調査方法は表 9 - 1 に示したとおりである。

表 9 - 1 調査項目及び調査方法

調査項目	調査方法
透視度	JIS K 0102 - 9
浮遊物質質量 ( S S )	昭和 46 年環境庁告示第 59 号付表 3

### 9 - 3 調査年月日

現地調査は建設工事期間中の平成 13 年 5 月 23 日及び 8 月 21 日に実施した。

調査当日を含めた前 4 日間の降雨状況を表 9 - 2 に示した。

なお、採水時は降雨後ではなく、降雨中であったが、採水地点の 1 (沈砂池出口) は降雨後ではすぐに水が引いてしまい採水できないため、降雨中に採水することとした。

採水に当たっては、採水時間までに既に 20mm 以上の降雨があることを確認して採水を行った。

表 9 - 2 降雨状況

(単位: mm/日)

調査日	調査 3 日前	調査 2 日前	調査前日	調査当日
平成 13 年 5 月 23 日	0	0	24	87
平成 13 年 8 月 21 日	3	0	0	134

出典: 「三重県農業気象速報」(津地方気象台)

### 9 - 4 調査地点

調査は沈砂池出口 1 地点と、現況調査を実施した 2 地点 (赤池、おごえ川) で実施した。(調査地点図 9 - 1 参照)



図 9 - 1 水質調査地点

## 9 - 5 調査結果

調査結果は表9 - 3に示したとおりである。

表9 - 3 水質調査結果

調査年月日	地点	採水時刻	分析項目	
			SS (浮遊物質質量)	透視度
平成13年5月23日	No.1 (沈砂池出口)	15:20	52 mg/L	5.0度
	No.2 (赤池)	15:40	10 mg/L	22度
	No.3 (おごえ川)	15:55	31 mg/L	16度
平成13年8月21日	No.1 (沈砂池出口)	13:15	210 mg/L	2.0度
	No.2 (赤池)	13:30	20 mg/L	16度
	No.3 (おごえ川)	13:40	140 mg/L	4.0度

## 9 - 6 まとめ

今回のSS(浮遊物質質量)の調査結果で、最も高かったのは8月調査時の沈砂池出口で210mg/Lであり、「ごみ処理施設建設に係る環境影響評価書」(平成11年2月)に記載されている予測結果(28mg/L以下)を上回る値であった。

沈砂池出口においては、5月調査時においても予測結果を上回る値(52mg/L)であった。

下流の赤池においては、同評価書に記載されている降雨後の現況調査結果と同等か若しくは下回る値であったが、おごえ川においては、8月調査時において現況調査結果及び、農業用水基準(農林省公害研究所:昭和45年3月)である「SS(浮遊物質質量)が100ppm以下」を上回る値(140mg/L)であった。

このおごえ川でのSS:140mg/Lという値に関しては、同調査時の沈砂池出口において210mg/Lという濃度の濁水が流出したが、下流の赤池が大きな沈砂池の役目をし、十分な滞留の末、20mg/Lまで濃度を下げていることから、今回のおごえ川における140mg/Lの濃度の濁水については、本事業に起因するものではないと考えられる。

また、5月の調査時においては、おごえ川では農業用水水質基準を下回る値であった。



写真 水質汚濁調査風景（平成 13 年 5 月 23 日： 1 ）



写真 水質汚濁調査風景（平成 13 年 5 月 23 日： 2 ）



写真 水質汚濁調査風景（平成 13 年 5 月 23 日： 3 ）



写真 水質汚濁調査風景（平成 13 年 8 月 21 日： 1）



写真 水質汚濁調査風景（平成 13 年 8 月 21 日： 2）



写真 水質汚濁調査風景（平成 13 年 8 月 21 日： 3）

## 10. 事後調査の実施業者

氏 名 : (財)三重県環境保全事業団

住 所 : 三重県安芸郡河芸町大字上野 3258 番地

代 表 者 : 理 事 長 若 山 明 夫